

# 伊予市

# じんけん教育

2009  
No. 8

一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会（〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155）



つぎのかた どうぞ!!

北山崎幼稚園は高速道路に近く、北山崎小学校やなかむら保育所と並んだ場所に位置しています。通園区域は広範囲で、北山崎、南山崎、郡中、由並の四つの小学校区から通園しています。園の子どもたちは素朴な幼児が多いのですが、自分の思ったこと、感じたことを素直に表現したり、相手に伝えたりするのが少し苦手で、時には小さなトラブルも起こります。また、核家族化が進み、地域における幼児数は減少傾向にあり、友達とのかかわりが薄くなっている面も見られます。

## 広がれ友達の輪

―身近な人とのかかわりを大切に―

北山崎幼稚園



おとうさん あそぼう!!

このような現状をふまえ、北山崎幼稚園では、人とのかかわる力や自分の思いを表現する力など、「コミュニケーション能力を養うことをねらいとして、行事を計画しています。その中でも今年度は、中山幼稚園の園児と遊栗館で交流会を持ちました。普段はほとんどかわる機会のない子どもたちですが、他の幼稚園の友達に会えることを楽しみにしていました。当日は遊具を共有しながら遊んだり、どんぐりのある場所を教えてもらったりして、友達同士のかかわりも見られました。また、交流後には「また会いたいね」「今度は



そうそう まあるくね。

幼稚園に遊びに来てね」と手紙を書きました。このような出会いの場を大切にし、今後につなげていくことが課題であると考えています。

その他にも年二回の「祖父母保育参画日」、父親の育児参加を願った「お父さんと遊ぼう」などの行事への取り組みや、地域の方々や触れ合うきっかけにもなる地域行事への参加を心がけています。普段の保育の中では縦のつながりを大切にし、異年齢とかわる時間を確保するように配慮しています。

このように、まずは身近な人たちの触れ合いを大切にしながら、小さな一つのきっかけから友達の輪、人とのかかわりが生まれることを願って、また、小さなことの積み重ねが、子どもたちの今後の力になることを信じ、必要な場面で子どもたちの橋渡しができるよう日々取り組んでいきたいと思えます。

# 人権・同和教育への取組

― 家庭・地域との連携を通して ―

伊予市立上灘中学校

上灘中学校では、校訓「自重互敬」の下、明るく温もりのあるあいさつ、互いに認め合い高め合う仲間づくり、自他の生命の尊重を目標として、日々の指導を行っています。そして、一学期に人権ポスターや作文、標語の作成をするとともに、二期の人権・同和教育参観日を中心に学習を進めています。



しおみ しまこ  
〈塩見志満子先生〉

今年度の人権・同和教育参観日には、一年生は「人権の視点で考えよう」、二年生は「瀬戸の夕焼け」、三年生は「小春日和」という内容で、参観授業を行いました。その後、「のらねこ学館」の塩見志満子先生に「厳しい道」というテーマで講演をしていただきました。今回は、地域の方々にも案内をし、全校生徒・教職員、保護者と共に聞くことができました。

参観日当日、生徒は授業や講演を通して学んだことをまとめました。そして、そのワークシートを持ち帰り、家庭で保護者と話し合い、意見を書いていただくようお願いしました。保護者が参加した家庭では、一つの話題で話し合う機会を持つことができました。また、参加していなくても、生徒が授業や講演の内容を話したり、生徒の感想を読んだりして、それを基に話し合い、感想を書いてくださった方もいました。その中からいくつかを「人権たより」として掲載し、配布しました。

## 生徒の感想

● 僕は他人に流されやすいところがあります。でも、それではいけないと思いました。今、自分に必要なことは、いけないことはいけないと言える人間になることだと思います。

## 保護者の感想

● 家では、はじめを見て知らんぷりをしている人が一番いけないこと、叱られたときには人のせいにならず、素直に非を認めることについて話し合いました。家庭でも、もっといろいろな角度から話し合いたいと思います。

● 塩見先生の講演内容が子どもにもどのように伝わっているのか、少し不安に思っていました。子どもなりに考えていることが分かり、安心しました。

多くの生徒や保護者の方々がこの日学んだことを自分自身のこととしてとらえ、自分の生活へ生かそうと考えています。

また、本校では、総合的な学習の時間に、一年生では「しげのぶ特別支援学校」との交流学习や「双海夕なぎ荘」での車いす介助体験やこんややく作り体験、二年生では地元の事業所での職場体験学習、三年生では地域貢献活動として、地域の方々のお役に立っている活動を行っています。これらの学習を通して、地域の方と触れ合い、地域の方から学ぶとともに、他者とのかわり方や、相手の立場に立って考えること、感謝の気持ちなどを学びます。

地域や家庭への啓発をすると同時に、私たち教員が生徒や保護者から学ぶことも多くありました。普段から地域ぐるみで子どもたちの健全育成に関わっていただき、感謝しています。今後各学校での人権・同和教育を進めていくとともに、地域の方とともに考えていく機会を持ちたいと思います。

〈記念講演〉

## 演題 「人の世に熱と光を！」

講師 清原 隆宣さん  
きよはらりゅうせん

人権を考える市民の集いの席で、伊予市民から応募のあった人権啓発作品の入選者への表彰と作文朗読、また、作者のメッセージを重ねた人権ポスターをスクリーンに映しての紹介をしました。

その後、清原隆宣さんの記念講演を聴きました。内容の濃い講演で、事例を交えた話はよく分かり、聴く人の心に感動と大切なことを届けてくれました。



「私は寺の住職です。中学校の教員を三十一年間していました。父親の住職を継ぐために退職しました。」と、自己紹介をして、講演が始まりました。講師の先生が話された流れで講演要旨を紹介します。

私が生まれた奈良県御所市は、

人口三万一千人です。八十六年前に全国水平社が結成された発祥の地です。先人の活動の記録・資料の散逸を防ぐために、十年前に水平社博物館が作られ開館しました。

昨今のマスコミ報道を見ていますと、多発する事件で人の命が軽くなっていると思いませんか。仏教の教えでは、人として生まれてくるのは大変難しいと説いています。ありがたいは、「有難い」と書き、



〈人権作品 表彰風景〉



人と生まれたことへの感謝の気持ちを表現する所から生まれたものだと言われています。

感謝の気持ちを持って生まれながら、生まれた地域でもって、部落差別という物差しを当て、差別を受けて来たのです。生まれた所によって、偉い人になったり、差別をされる人になったりするのは、間違った物差しで人を見るからこんなことが起こるのです。人間が作った間違った物差しを、もっともらしく社会生活に当てはめるので困ります。

生まれながらにして、差別やいじめをする人はいません。ところが、小さい時から人をけ落としても偉くなるための生き方を教えると、その物差しで自分や他人を見てしまう人間になります。インターネットの差別書き込みもエスカレートしていますが、「差別」を取り締まる法律がありませんので、警察も対応できません。

差別は、人の命を奪います。恋に燃えた私の後輩のことですが、女性の親から結婚に反対され、自ら命を絶しました。ある特定の地域の人は、自分たちとは違うという意識やこだわりの間違いを直して行かなくてはなりません。差別に出くわした時、その差別とけんかのできる人間を育てなくてはなりません。

地域の研修会に招かれた時の事例を紹介します。結婚差別をテーマにした映画を見ました。その映画は、若い二人の結婚について賛成しておきながら、親が調査会社をつかって調査し、結婚に猛反対するストーリーです。その映画を、「かわいそ

うに」と泣きながら見ている女性がいました。映画の後、私も話をして研修会を終えました。そして、表に出たとき数人が立ち話を始めました。先程まで涙していた女性が、「そやけどなあ〜」。私はこれだと思いました。この考え方（そうは言っても、世間はなあ〜）が間違った物差しの根幹だと思いました。

研修会は、物知りになってもらう取組ではなくて、そのことを暮らしの中で生かし、暮らしの中で実践する学習であることを知って欲しいのです。実行して、差別の芽を摘む人になって欲しいのです。

「そやけどなあ〜」は、理屈は分かるが、世間体にとだわる主体性のない生き方です。この意識には、進歩や改善がありません。例えば、「六曜」、「ぼっくり寺」、「厄年」等、生活の中の世間体や迷信を気にしてとだわるのは、人間の意識の弱さです。

間違った物差しにしばられた生き方ではなく、それを解き放し、自分らしく生きましよう。これを「解放」と言います。水平社は、「人間を尊敬する」という物差しです。尊敬するとは、あるがままに、そのまま人間として認め合うこととです。違っていても当たり前。そのことを丸ごと認め合いましよう。「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」です。間違った物差しを改めていきましよう。



社会に存在する間違った物差しと、世間体にとだわる生き方を改めなければ、人権を大切にすることは作れません。心に残る素晴らしい講演でした。

# 第31回 伊予市人権・同和教育研究会

研究主題「郷土を愛し、互いに認め合い、思いやりの心をもって行動できる生徒の育成」

伊予市立中山中学校



〈1年生の授業風景〉

本校では、二〇〇八(平成二十)年十一月十九日に伊予市人権・同和教育研究会を行いました。

一年生では、「決心」という題材で、いじめられている人の気持ちに思いを寄せ、いじめをなくすために積極的に行動しようとする意欲や態度を育てる学習をしました。この学習を通して、クラスメイトの存在について深く考え学ぶことができました。

二年生では、「解体新書」という題材で、部落差別が人間の尊厳を奪う不当なものであることについて学習しました。そこから、身近にある差別について気づき、差別・偏見を克服するための行動を考えました。

三年生では、「小春日和」という題材で、結婚差別の現実を通して、その不合理に憤りを感じ、差別解消に立ち向かう

態度を育てる学習をしました。

授業後、十地院住職の鈴木俊龍さんから「むつみ会」の活動から学んだこと」という題で講演をいただきました。「むつみ会」とは、共に話し、共に食べ、共に飲んで、心のふれあいを深めていく交流の機会、親睦を目的としていることから、親睦の睦をとって名付けたそうです。講演の中では、今後少子高齢化が急速に進む中で、地域住民には様々な課題が残っていること。これらの課題を解決するために、学校・家庭・地域が一体となって、その絆を強くし、人権・同和教育の徹底充実を図っていかねばならないことを熱く語っていただき、深く感銘しました。



すずきしゅんりゅう  
〈鈴木俊龍さんの講演〉

## すべての差別をなくする 人権・同和教育の推進

### 中村地区公民館「地区別懇談会」

「人権を尊重する考えや、それを行動に移す力を身に付けていこう。この機会をとらえ、共に話し合ってみましょう」というねらいで、各地域の区長さん方の御協力のもと、十月に十二会場で開催しました。北山崎校区は、従来から北山崎小学校やPTAの格別な御協力と御支援を得て開催されており、子どもと一緒に参加している会場が多く見られるのが特長です。

そのようなよさを生かして、「子どもたちの声を『地区別懇談会』に反映させ、子どもたちの取組や考え方を、人権・同和教育の推進に生かすことはできないか」の考えのもと、立案して「地区別懇談会」を開催することにしました。

まず、子どもたちの声が地域へ反映できるものとして人権標語があります。幸い、北山崎小学校では、児童とその保護者を対象にして人権標語を募集しています。この応募された人権標語を地域コミュニティの視点で活用させていただきました。それぞれ開催される地域の児童と保護者の人権標語を選出いただき、



〈三世代が参加しての懇談会〉

開催会場で披露し、近くに住んでいる子どもや保護者の名前や人権への思いを知り、親密感を味わい、啓発を図るよう取り組みました。また、北山崎校区の中学生の人権標語についても同様に選出していただき、人権標語を披露しました。

# 第60回 全国人権・同和教育研究大会開催

二〇〇八(平成二十)年十一月  
二十九(土)・三十(日)日 奈良市

第六十回全国人権・同和教育研究大会が水平社発祥の地奈良県で開催されました。本年は、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と謳った「世界人権宣言」が国連総会で採択されて六十周年にあたり、また、今大会も六十回の節目にあたり、意義深い大会でした。

伊予市からも四十五名が参加して研修を積みました。「人の世に熟あれ、人間に光りあれ」の水平社宣言にこめられた人間解放の崇高な理念を掲げた先人の歩みをたどり、水平社博物館と西光万吉(水平社宣言文起草者)の生家、西光寺を訪ね、研修を充実させました。参加者の大会感想文を紹介します。



〈分科会風景〉



〈開会式風景〉

## ◆◆◆◆◆ 第六十回 全国人権・同和教育研究大会に参加して

去る十一月二十九、三十日、この大会に参加させていただきました。節目の第六十回大会、水平社運動発祥の地での記念すべき大会に参加できたことをうれしく思いました。

全体会の特別報告として広陵西小学校、森下和恵先生の報告がありました。なりたくて自分の熱意で選んだ教師だけれど、はじめて担任した四年生のクラスで、自分の言うことを聞いてくれない児童との出会い、「Aさえないなけ



〈水平社博物館〉



〈西光寺(西光万吉の生家)〉

れば」という思いが消しても消しても出てきて、「明日こそは辞める」と、泣きながら学校に行っていた毎日。しかし、何か一つでもできることから…と、Aとの人間関係づくりをしていくうちに自分自身の変容、子どもたちの変容が生まれました。そんな年目の出会いを心に留めて、一人一人を大切にするかかわりから、子どもが大好き、仕事が大好きになったという発表でした。一人一人の子どもに寄り添うことの大切さを再認識しました。

午後と翌日は、「人権確立をめざす教育の推進」の分科会に参加、子どもたちの様子とそのきめ細やかな取組が報告されました。「遊び」に隠れた「学び」の秘密では、「知らない」より「知っている」、「できない」より「できる」、「やったことない」より「やったことある」の方が意欲につながる。未経験、未経験の子どもたちを置いてきぼりにしないで、だれがどう教えるか、早期教育ではなく、生きていく上で必要な事象や言語に出合い気づけるように、子どもといっばい遊ぼう！というような報告でした。日頃かかわっている園児にも生かせることだと、関心を持って聞くことができました。多くの報告から大事なことが沢山学べました。

水平社博物館では、運動の起こりとその歴史を学ぶことができました。人間の尊厳と平等をうたう人権・同和教育について更に勉強し、人権感覚を磨いていきたいと思います。

次に、小・中学生は、人権教育を深めるため人権作文を書いています。その中から小・中学校から一点ずつ選考していただきました。そして、小・中学生自身の声を録音し「地区別懇談会」で紹介することにしました。この作文には、差別を許さない気持ちや人を大切にする心や行動に移すことの大切さが盛り込まれており、子どもたちを核に据えた社会教育での人権・同和教育の推進に大きく貢献できたと考えています。

本年度は、視覚障害のある一人の女性を通して、周りの人が「人権」の大切さに気付く「今日も、よか天気たい」のビデオを鑑賞しました。自分の心の中にある偏見や差別に気付いていく、子どもたちから大人までの幅広い年代層に共感できる内容で好評でした。

この「地区別懇談会」は、長年続けられており、その積み重ねにより多くの成果を上げてきましたが、参加人数や話し合いの持ち方、深め方など、多くの課題もあります。

一人一人の思いや考え方は、多くの人との話し合いや学習により少しずつ意識の変容が起こってきます。特に、子どもたちと共に学習し、それぞれの立場を尊重し、共感して、行動に移していくことが、同和教育をはじめとする様々な人権問題の解決のための大きな推進力になっていきます。今後とも皆様方の御協力をお願いいたします。

## ブルーメン 「JISマーク知っていますか」



平成二十年六月一日施行の改正道交法で、聴覚障害者の運転免許取得が可能になりました。そして、車の運転時は、車の前部・後部にこのマークが表示されます。これが聴覚障害者マークです。このマークを表示している車に、幅寄せや割り込みをすることが禁止されます。安全への配慮を忘れないようにしましょう。

# 第23回 人権啓発標語入選作品

一人一人の人権が尊重される 明るい伊予市をめざして

応募数 / 小学校	256点
中学校	112点
高校	69点
成人	380点

応募総数 / 817点

多数の応募ありがとうございました。入選作品を紹介します。(敬称略)

## 小学生の部

- みつけよう あのかやこのこの いいところ  
郡中小学校 1年 渡部 尊
- うれしいな みんなとあえる げつようび  
中山小学校 1年 奥野 遥
- たすけ合おう みんな大事なともだちさ  
由並小学校 2年 中島 朱里
- あったかい きみとつなぐ手 みんなの手  
郡中小学校 2年 錦野 花歩
- きょうしつに えがおと友だち あふれてる  
佐礼谷小学校 2年 北岡 蒼真
- いじめたら きみの心も いたいはず  
伊予小学校 3年 坪内 優香
- 自分から 手を差し伸べて 助けたい  
南山崎小学校 4年 細井 香織
- ただ見てる そんなたいども いじめだよ  
下灘小学校 4年 峯 菜月
- うれしいよ そっとさしだす やさしい手  
伊予小学校 4年 倉岡 真菜
- 笑顔の種 きれいな言葉で 育ってく  
南山崎小学校 5年 中野 里菜
- だいじょうぶ そのやさしさで 元気でた  
翠小学校 5年 亀田 朋子
- ほくはなる いじめを見たら 止める人  
佐礼谷小学校 5年 上岡 樹佳
- 勇気をもって やめよう 見て見ないふり  
郡中小学校 6年 星山 美咲
- 手をつなごう やさしさつながる まほうの手  
下灘小学校 6年 宇津 愛美
- 力じゃない 優しい心が 本当の強さ  
伊予小学校 6年 鶴井 薫乃
- やめようと 言えたよいじめを 見てたぼく  
佐礼谷小学校 6年 松村 由季
- 育てよう 優しい心を もつ勇気  
北山崎小学校 6年 米田 千広

## 中学生の部

- 友だちは 傷ついた心の 特効薬  
港南中学校 1年 土井 悠志
- 君の笑顔は 僕の宝物  
中山中学校 1年 河内 達哉
- キミの笑顔で 心の雨が やんでいる  
下灘中学校 1年 豊川 美咲
- 情けない 見て見ぬふりする その心  
伊予中学校 2年 小笠原 梓
- 勇気出せ 見ているだけじゃ 変わらない  
中山中学校 2年 西岡 真優
- わたしの心 支えてくれる あなたの心  
上灘中学校 2年 久保ひとみ
- 合わせよう わたしの音と 君の音  
伊予中学校 3年 水口 志織
- 枯れた花 うるおすみんなの 思いやり  
港南中学校 3年 宮岡あさみ
- 芽吹け 人権の芽 輝け 笑顔の花  
上灘中学校 3年 徳永 奈央

## 高校生の部

- おかしいと 気づく心と 言う勇気  
伊予農業高校 1年 小林 将人
- そのいじめ 見ているだけは もうやめよう  
中山高校 1年 伊勢奈津美
- 差し伸べる その手の勇気に ありがとう  
伊予農業高校 2年 柴田 恵美

## 成人の部

- 広い目を 心を育てる 親の言葉  
伊予市米湊 西藤 知子
- 無関心…それが いじめの第一歩  
伊予市湊町 丸橋 香織
- 画面より 目と目を合わせ 話そうよ  
伊予市三島町 大塚 佳久
- 心の杖 ソッと差し出す 思いやり  
伊予市中山町 西岡 敏裕
- 大切なのは 気づくこと 心のアンテナ 広げよう  
松山市桑原 井上 文博
- あいさつが 垣根を越えて 人結ぶ  
伊予郡松前町 大森こずえ
- みな同じ 生んでくれてありがとう  
生まれてくれてありがとう  
伊予市上野 山崎 理恵
- できるはず 勇気の一步 私から  
伊予市上野 坪内 和秀
- みんな一つの 地球に すんでいる  
伊予市宮下 橘 かつら
- やさしい手 同じ目線で さしだそう  
伊予市上野 大川 陽子
- 正しい知識で きちんと認識  
伊予市八倉 山下 美紀
- 人権は 平和な世界へ 架ける橋  
伊予市上野 木山 淳子
- 心の木 真っ直ぐ大きく 育てよう  
伊予市八倉 大西 一幸
- 人はみんな その小さな手に 夢と愛を  
もって生まれてきた 生きる権利は平等に  
伊予市上三谷 西山 雅志
- 言葉に出した優しさは きっとあの子の  
笑顔に変わる  
伊予市市場 眞田 和朗
- あいさつは 親が地域が よい見本  
伊予市稻荷 千葉智加子